

## 全国知事会議(令和2年11月5日)における東京都の発言要旨

### 【活力ある地方の実現に向けた提言について】

新型コロナウイルス感染症は、これまで当たり前だと思っていた価値観の転換を強く促している。例えば、デジタル化の動きが更に加速化していく中で、日本全国は距離と時間を超えた、新しい「つながり」で結びつくことになる。どこにいても「つながり」を持てる中で、集中か分散かという旧来の二者択一的な価値観にどのような意味があるのか。ポストコロナの時代、この新たな「つながり」を最大限活かすこと、そして地方部と都市部が連携し補完しあうことが、地域の課題を解決し、新しい未来を創り上げて、大きな力を生み出していく。これまでの議論を大きく変えていくこと、つまり「未来志向」の価値観に基づくことが必要である。その上で一致協力して、誰もが輝いて、活躍できる地域社会を実現することこそ、我々47人の知事の責務である。大都市部のリスクを強調するといった「対立」的な話から、いかにして活力ある未来に向けた「連携・相互補完」への転換ができるかということが問われている。そうした視点に立って、地方創生の提言案のタイトル「大都市部への過度な一極集中リスクへの対応」を「活力ある地方の実現に向けた交流の促進」に修正していただきたい。この点を強く求める。また、新型コロナの提言案に関連して、今後、国際的な往来の再開を進めていく方針が政府から示されているが、一方で、欧州はまたさらに厳しい状況になっている。先月、海外との交流が多い1都3県の知事で西村大臣を訪問し、入国管理・検疫体制の強化・徹底など、5項目の水際対策を要望している。全国知事会としても引き続き強く求めることをお願いしたい。来年には東京2020大会が開催される。皆様方とともに、未来への希望を灯す祭典として成功させるためにも、引き続きご協力をお願いする。

